



PROFILE Hiroteru Tanaka

平成14年4月 総務省採用
 関東管区行政評価局
 平成16年4月 群馬行政評価事務所評価監視官付
 平成18年4月 行政管理局行政情報システム企画課
 平成21年4月 大臣官房秘書課主査
 平成24年7月 行政評価局評価監視調査官
 平成26年7月 現職

行政管理局主査 併任 内閣官房内閣人事局
 田中 裕晃

常に新しきを求めて

仕事内容

新しい形をつくる仕事

私は、現在、各府省の機構・定員の要求について、行政需要の変化に対応した効率的な行政組織と効果的な体制とするための審査等を行っています。具体的には、毎年8月末に各府省から要求書が提出され、9月から年末までの予算編成過程において、各府省から要求内容や理由の説明を受け、局議等を通じて審査を行います。この期間中は担当府省別に仕切られた「査定室」で業務を行い、1年間の業務のピークを迎えます。そして、審査結果は、財務省主計局に伝達し、最終的には政府予算案に反映されます。また、私はそれ以外にも、ICTも活用した各府省の業務フローの見直しなどの業務改革を積極的に推進するといった業務も行っています。これらの業務は、行政の新しい形をつくる仕事であり、未来を見通せるマインドが重要だと強く感じています。

総務省について新規採用者へ伝えたいこと

『面白そう』から『やっぱり面白い』へ

10数年前の採用面接で「総務省に入ったら何をしたいですか?」という定番の質問に「政策評価や評価・監視(行政評価局調査)をやりたいです。」と答えました。『なんとなく面白そうだし』くらいの感覚で。そして、平成24年7月から行政評価局調査を担当しました。調査計画の策定から、全国の局所を動員した調査の実施、調査結果の取りまとめ、結果に基づく改善方策等の勧告・公表に至るまで携わることができました。この業務がこれまでに経験した中で最も面白く、印象深いものとなりました。行政評価局調査は、まさに調査先の行政機関、現行制度との「真剣勝負」。もちろん正直しんどい場面もありますが、その先には大きな「達成感」が待っています。総務省のHPやこのパンフレットを見て『なんとなく面白そう』と思ったら、総務省の門を叩いてみてください。『なんとなく面白そう』が『やっぱり面白い』に変わる日が来ると思っています。

Private Time

昔から「一生の趣味はこれだ!」と突発的に思い、「道具を完璧に買い揃える→周囲を巻き込む→1度経験すると満足」を繰り返しています。このため、週末はその時々の趣味に時間を費やしています。今の趣味は、購入した一眼レフで友人達と一緒に撮影すること。皆さんが入省する頃には、また新しい趣味を紹介できると思っています。



PROFILE Takumi Takahashi

昭和58年4月 行政管理庁採用
 九州管区行政監察局
 平成13年10月 行政評価局評価監視調査官
 平成16年5月 行政管理局副管理官
 平成18年7月 行政評価局評価監視調査官
 平成20年3月 行政評価局総括評価監視調査官
 平成21年7月 行政評価局調査官
 平成23年4月 行政評価局総務課評価監視企画官
 平成26年4月 現職

行政評価局総務課
 地方業務室長
 高橋 巧

その先の“達成感”へ。

仕事内容

活気ある現場に

「行政評価局調査」には大別して2パターンあります。本省の企画・立案による「全国計画調査」と管区局・事務所による「地域計画調査」です。私が担当する地方業務室は、後者の実施や結果に関し、本省と局・所との間の連絡調整や、局・所への支援・助言などを実施しています。言わば、「架け橋」的な存在ということでしょうか。また、各府省担当室と同様に、「全国計画調査」も実施しています。現在は、国の行政機関において、災害対応のための備蓄が十分なものとなっているのか、帰宅困難者対策はどうなっているのかなどについて、13局・所ともども調査を実施しています。このため、うちの室員たちは、地域計画調査関係の業務に携わりつつ全国計画調査も行いうという、(実に?)活気ある現場にいるということです(“人使い荒いなあ~”という声が聞こえない振りをしつつ?、私は、マネジメントをしているということでもあります)。

総務省について新規採用者へ伝えたいこと

実は私は(も)

「はい。明日の10時から面接ということですね。伺います。」通話を終えてから考えました。「行政管理庁」って何するところ?」即座に「現代用語の〇〇〇」を手に取り、面接に向けた“俄か勉強”を始めました。私と我が職場との初めての出会いとは、そんなものでした。そして「10年」勤務し続けてきています。この間、ツライこと、出勤拒否になりそうなことなど平坦ではないこともかなり経験してきました。それでも、仕事をやめなかったのは一体なぜだろう?と考えることがあります。周囲の人たちに恵まれたことはもとより、一つには、「達成感」を覚えてしまったからでしょう。一つの調査テーマに関し、あれこれ勉強し、「事件は現場で起こっているんだ」と肝に銘じ調査に行き、相手府省との様々な議論、職場での議論・検討、試行錯誤し書き上げる報告書、これが印刷物となり、マスコミに採り上げられ、改善につながり……。そのときの“達成感”。あなたも味わいたいと思いませんか?

Private Time

学生時代にアコギで挫折しかけたことへのリベンジもあって、エレキギターを習っています。当然ヘタです。が、スタジオで大音量で弾く瞬間は「カ・イ・カ・ン」です。また、ある目的もあって区のスポーツセンターで走り持ち上げ引っ張り自転車を漕ぎ、身体の鍛錬を。かなりキツイんですが、終わった後は、これまた快汗(加功)です。

